



明治十二年癸未

塩尻卷之六十八 重保



徹書記

免足神社

三河国内神社名帳

昔皇都大学寮釈奠

陽舎

米糲

青蓮肚

去来、の、狂奇

喘息茶

科人追板

公教傍部

五袋山城と才下粒初子

身享元諸州疫症係り

天醜

壺沙姑茶山

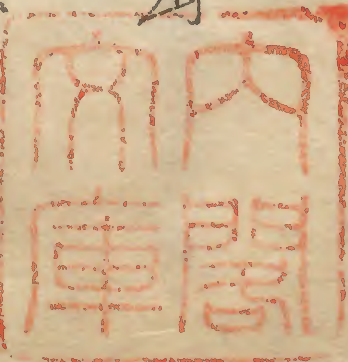
三史并三注

杉物高入姑茶

白川院男色子茶の以事

女才姑池山名効才印也事

尾城西の二村以効才事



去寅十月七日風流

阿蘇院の歌を大寺角

河内國玉女安福寺行住大

佐渡國の二郡

歌を以て

熱田社佛供田

尾城牛乳天玉湯具云

年廣の生地

延時奉安湯田植念

若徳天皇の詔

唐土の金銀器木の図

戲書松竹の茶

湯水女八郎春田村を和

相大花

小使若湯村の治法

浄土宗の十兼

名古屋城内外諸士宅地市井

蟹巻二種あり

鳥合権現

款識

熱田湯起の筆者

倚筵必用散譜

一字折楷而兩字音同

扁

玄上の琵琶

春舟一人一首の詩

とわくこと云

帷臺の表行事

あはせ

朱元師

古歌の花吹雪

又字のヘンツクリ

皇女大官が歌多敷地斗ふ云

我國古くは陶器を制及

明未常

けのり云

ほをいふ

伽藍木の号

東王父西王母

○ 徹書記

正徹和尚字清岩招月菴と号す
東福寺の寺法を以て

近代の初めに

一々世に分るる所多し 長禄二年五月十九日寂

七十 遺稿を子孫集と名付一巻 禪閣兼良公の

序を著すも 朝野藝苑高名集と名付 妙談

古今の撰者雅世大納言慈名井 竟堂僧侶の人を徹

書法を始す一々彼証をを集めて 和漢多し

一々凡秀才ハ村の人始す世々一々和漢多し

○ 心教傍於前十 文部省心院 四月十九日寂七十

○ 三河國神名帳伊 免足イ 社名國造存記

穂今の伊豆郡の昔伊豆郡 國造ハ生紀臣祖免上足屋イ 免足

去文字を畧して 一々於此ハウソコと稱す 餘を

トハウタリノ神社と云々

ウカミクニノ神と云々
谷をタリと云々
若便カク山也

○或同五畿ノ次ニ東海ノ次ニ云々
賀ノノ穀ノ初ニ是大和ノ京ナリ
ノヤ山神と云々
本紀云云
大和國処之第一云々
年四十三仁明天皇ノ勅定カクノヲ知ク

○三河國內神明帳

山幡三所大菩薩大明神

若宮兩所天湍天神

正一位砥鹿大菩薩大明神

十九所

正一位池鯉鮒大明神

同 猿投大明神

同 石卷大明神

正二位羽利大明神

同 赤孫大明神

正三位磐倉大明神

同 津守大明神

座碧海郡

坐加茂郡

坐八名郡

坐幡豆郡

坐宝飯郡

坐設樂郡

坐宝飯郡

坐宝飯郡

正三位兔足大明神

坐宝飯郡

同 白鳥大明神

同

同 謁磐大明神

坐額田郡

同 阿志大明神

坐渥美郡

同 御津大明神

坐宝飯郡

同 砥神大明神

同

同 内母大明神

坐幡豆郡

同 伊良久大明神

坐渥美郡

從三位竊樹大明神

坐碧海郡

同 石山大明神

坐宝飯郡

同 寅之大明神

坐渥美郡

同 猿投三御子大明神

坐加茂郡

明神二十三所

正四位下伊麻留明神

坐碧海郡

同 糟目明神

同

同 大伴明神

坐八名郡

同 井祭明神

坐宝飯郡

同 野社明神

坐碧海郡

從四位上草部明神

坐宝飯郡

同 大頭明神

坐碧海郡

同 和久知明神

坐宝飯郡

同 白鳥三御子明神

同

從四位下日長明神

同 大藏明神

同 稻束明神

同 熊來明神

同 齊宮明神

同 凍明神

同 形原明神

同 須羽南宮明神

同 津投明神

同 加狝玉明神

同 土穴明神

坐碧海郡

同 坐飯郡

坐幡豆郡

同

同

坐宝飯郡

同

坐後樂郡

坐幡豆郡

坐設樂郡

同

同 篠束明神

同 砥鹿三御子明神

天神百十五所

正五位下鷲取天神

同 小島天神

同 伊保天神

同 灰室天神

同 野見天神

同 兵主天神

同 廣沢天神

同 稻前天神

坐宝飯郡

同

坐碧海郡

同

坐加茂郡

同

同

同

同

同

坐額田郡

同

正五位下 脱字 天神

同 宮道天神

同 大庭天神

同 長孫天神

同 廣目天神

同 廣鏡天神

同 石前天神

同 和知天神

同 大坂天神

同 柄山天神

同 稻本天神

坐 額田郡

坐 宝飯郡

坐 加茂郡

坐 八名郡

坐 渥美郡

同

同

同

坐 八名郡

同

同

同 小山天神

同 大井天神

同 石村天神

同 大村天神

同 江原天神

同 佐服天神

同 櫻本天神

同 前庭天神

同 院庭天神

同 國玉天神

同 服織天神

坐 碧海郡

同

同

坐 八名郡

坐 碧海郡

坐 宝飯郡

坐 碧海郡

同

同

同

坐 宝飯郡

心五位下占部天神

同 磯泊天神

同 國玉天神

同 久佐志天神

同 野辺天神

同 葛州天神

同 磯部天神

同 蘇美天神

同 走井天神

同 柱津天神

同 小山田天神

坐碧海郡

坐幡豆郡

坐設樂郡

同

同

坐渥美郡

坐宝飯郡

坐幡豆郡

同

坐額田郡

坐宝飯郡

從五位上河向天神

同 和田天神

同 野屋天神

同 酒人天神

同 火御子天神

同 比叢天神

同 蒜生天神

同 加知天神

同 完秦天神

同 市階天神

同 佐井天神

坐八名郡

同

同

坐碧海郡

坐渥美郡

坐碧海郡

坐八名郡

坐宝飯郡

坐額田郡

坐宝飯郡

坐八名郡

從五位上島田天神

同 竹谷天神

同 槻井天神

同 舟多天神

同 宝海天神

同 温谷天神

同 土師天神

同 小川天神

同 孝佐天神

同 日女天神

同 伊智驗天神

坐設樂郡

坐宝飯郡

同

坐八名郡

坐渥美郡

坐宝飯郡

同

坐碧海郡

坐幡豆郡

坐八名郡

同

從五位上酒井天神

同 小田天神

同 小槻天神

同 摩乎虞天神

同 竹生天神

同 黒田天神

同 庭野天神

同 大津天神

同 須波天神

同 石按若知子天神

同 劔若御子天神

坐碧海郡

坐宝飯郡

坐八名郡

坐宝飯郡

同

坐八名郡

坐宝飯郡

坐八名郡

坐設樂郡

同

同

後五位上大神

同 神小山天神

同 大歳天神

同 神本天神

同 池上天神

同 御宗天神

同 美禮天神

同 八劔天神

同 國津天神

同 厚木天神

同 出雲天神

坐八名郡

同

坐渥美郡

坐宝飯郡

同

同

同

同

坐八名郡

坐宝飯郡

同

同 石上天神

坐宝飯郡

同 宇亩天神

坐渥美郡

同 楠本天神

同

同 西堂カイヤラ天神

坐宝飯郡

同 東堂カイヤラ天神

同

同 神月天神

同

同 宮解天神

同

同 伊久佐男天神

坐渥美郡

同 伊久佐女天神

同

同 多美河津天神

坐宝飯郡

同 槻村天神

同

從五位上菱木野天神

坐宝飯郡

從五位下須束天神

坐八名郡

同 黑楊天神

坐宝飯郡

同 善徳天神

同

同 櫻井天神

同

同 三祭天神

同

同 宍社天神

同

同 大歳天神

同

同 溝庭天神

同

小初位神七所

今槻若御子

坐宝飯郡

上羽神

坐宝飯郡

御典木秦部若御子

同

床典神

坐八名郡

儀宮神

坐宝飯郡

高宮若御子

坐額田郡

宇久津神

同

三州加茂郡猿投大明神前宝樹院周海書之
于時元祿五年壬子中春吉賞

○貞享元甲子の六月ハイレ靈モホ蒙シ〜〜日月炎カキ〜〜四五
月の以肥州長崎港疫疾大流行〜〜比屋病床に

外一死より亦も此七千餘人及び
六月廿五日
秋を注ぎし 九州
中国の方も亦疫氣一府より及んば是又死するもの
去年一々六月七月難波京師及び滋疫の毒
若し三越一泉南九一ノ堺の毒が死七千人
たより一京一々一組を定め人形を伴い衆人數十人
重籠を唱へて一疫を遠く喧公とて一前代末岡の
すくたより一京東も同く此に似て一府下中元乃
お存病の外一医沙茶點をけりたて一時一々一々
まもも廿二日一々一々一々一々一々一々一々一々一々
ら次第江流三の流沙東船も同く一疫一疫一疫一疫一疫
古一へ一々一々一々一々一々一々一々一々一々一々一々

○ 昔白皇都大学寮の先聖 孔子 先師 顔子 大哲の像を崇め
春秋の釋典目録度りし一々一々一々一々一々一々一々一々一々
六十餘員の國字一々一々一々一々一々一々一々一々一々一々
襄世よおしひ学後國人其名も一々一々一々一々一々一々一々一々
我尾張の妙寺
昔中島郡田街 野州是利學校の先聖を安座する
所も岡一々一々一々一々一々一々一々一々一々一々一々一々
一々一々一々一々一々一々一々一々一々一々一々一々一々一々
林氏の宅地は終く大成殿を建立せきまじり
二件の際も一々一々一々一々一々一々一々一々一々一々一々一々
元禄四年
神田の地を以て 昌平板一々一々一々一々一々一々一々一々一々
殿を再建あり一々一々一々一々一々一々一々一々一々一々一々一々

を以て此の如く長壽の吏其家より聖位を以てし方行進
しを以て永七子庚寅佐久間安徳等平信就官告
新の聖位を嘗し孔子以下の神位を以て明神
制に教ひ本主を以て平一春秋の系ありし其傍に
学舎を以て建く毎の書を以て講じしむ白井元成唐去人も
附し系り洋禮は是太平の化なり

○ 天子御取を以て是を天取と云ふ後花園院の
附しりの稱也いし其事なるを以て

○ 部屋今關東の官府字に隔合なり其事なり

○ 遠州秋葉山大登山秋葉寺本尊観音三尺幅ハ土也

國國光明山大渡山光明寺本尊虚空蔵菩薩

此兩寺曹洞派の古禪刹なり秋葉寺は往昔天野が
以て造進せり

吾前藝州太守清室淨弁居士天野景顯

宗天院前戸部侍郎頭道義本居士天野遠幹

是為秋葉寺の大壇越なり

○ 米ハイライ 碎米俗云めざい 裸麦赤剥麥俗云あつむぎ

○ 三史

史記漢書前後を以て是を文選を合を刊讀なり
もは中世儒者の學なり

○ 三註

千字文蒙求胡曾詩の注解を以て是亦中以吾國

儒家の学よりして後之禪徒者も是亦を習学
せし近世亦三修詩古文真蹟及び禪绣匠杜律
等を講授して是を儒学と思ふ

○青蓮耻丹菓唇と射より竺土を甚華あり其花
を白分好して大人眼目の象ある事維摩經に
凡西丹菓梵語を頻婆摩土と相思子といふ翻訳
名義あり和俗云唐小豆不利

○江城亦山仰くく又佳信りる可者力なき核抱
為人あり其花因企救於葛原の者なりかた力
四寸の核を誦し自身に於てむも一奇人といふ
かき花の播種と十所より中門又寄

かき花を毎々あすのこもあす

夏はくくしきそりのせきも

暖く花飽かると食ひ人の上も立く花に紫の情らぬ
人も身被り射していらぬ西赤かして有き

○かき花に花を去来の狂歌

かき花くくいそくといふ二階か

花は花を花を花を花を

と花は花も浮世のすく大緊かくのいそか
花も花も花も花も古新の心も花に花に

○白川院の男を花を花を花を花を
治容を花を花を花を花を花を花を花を

流てみ終りすくさるるまゝいりてくく刃をりしと

此後左が大人長門守経敏の家人因防國の子幼す

東大寺におも給寛く思ふ事しりていさむきよのよ

せしを公川院御幸の時天眼を及もとるく巻殿上

しし法電を有くえ折しを好む伝ふ事世に後ち

盛重とらひし此をの生立なりし

○ 東にゆく或人登りし一喘息の茶水年能茶 秘法六君子湯

加味素の先天門冬五味子熟地黄右四味の布を箱

根草子倍加用ゆ

○ 若くすの池は慶長の法より水谷氏の子業かかりし

東叡山御建立の時寄附しとあり世に其後池の端

まがや、立たりし山名勘十郎とて二万才忽物切世

渡り着ありし彼の母容よりしりし公徳き

如く人のおま首を足付して食もすもさして我

子よいひく毎一人の尸骸を例ふかきし山名も

ててあつしんかる或時中夜に忽物切れを赤松城西と

早り今の山名の西なり池名池名は忽物切れをせしこと

あま池水は佛にまはして流るる佛きし僕も佛のま

しりて毛色よかへしうかひし又倭も忠かきなりと立

置電をけしし池水浪立すもあし下僕もいとき

行くるるよ婦人か見しと尋しゆいし故に仰りか

告しよ亦彼女より忠池水なるあまを故の内は者

走馬よりふ敵船に入らば其をよりの池に落人しうハ
浪立きりきて水浴を以てせし彼乗一馬の浪子の主なる
法より息も強あへば馳せり我亦坂渉池のをさ
懸りてあやけしる女房水中より浮出するを
之を敵を此馬よのせしめて花寄しうはりんも
何方へけりやとて問ひ家裏ははあしりけりハ
此池のまゝあんと思ひて先は鯉魚ありてま
敵船を拒りしゆは位別し急りたる悪をすれ
池へ入しりけりて馳出侍りし得道りて追
糸よりま女房いり何れも同ふ人々物怒りて池
小く強きあつりて後中へ怪異の事もあるに

勅学院の了翁傍に島を築きて舟を天を必並し
悪霊を治せしけり終りて一旦地を離れて鐘樓側
に鐘池の中沈み房州の海士を捕てきて利
かき求りて泥海へ底を穿て入りてを好ま
是もよそ彼霊の取しやとて了翁は切徑
を彼處に安置せしけり終りて終りて
○戦國以来諸國罪科の民を去りて彼を追ひ他乃
思ふたが事留るゝ多かりし關東の作りのありし

科人追放の事

右科人の事よく括括を在科は或は彼關
所も其事怪しむ科人共く小くは中侍の候を

度、地中の風を衝く勢がたつた時、必物を破る
 ことあり、其時其所より人ゆかりなき程とするも、其地
 ○ 寅十一月、自南風強く南湖大坂急に波濤深りて
 形を換き、其後尾城を南宗國寺本堂汗流り、事
 去る年の冬、たゞ一、又は念佛所 誓願寺 古像も汗
 あり、希有の事、くく凡る者多かり、ゆきて寺々、金
 箔をくきり、相も汗のくく、常落り、所多し、冬日、
 南風をけし、く雨湿、財氣、度り、たか、く、事、作、り、こと
 ○ 其保七、此者、難波、系、沙、東、部、於、今、一、て、春、信、樂、事、
 凡、財、尚、の、俗、書、極、り、を、勢、り、き、り、し、妙、
 ○ 在、り、比、阿、菴、院、り、大、鳥、を、地、き、り、 秋鳥 園、北、き、り、

人の足きり、は、く、軍、使

多、北、き、り、四、尺、餘、石、を、管、ひ、火、を、餅、き、り、り、好

此、角、り、際、を、頸、松、か、き
 の、毛、を、洗、の、く、く、か、く
 毛、を、あ、り、洗、ま、り、く、く、ま、り
 か、の、毛、を、赤、毛、為、灰、毛、く
 て、羽、を、く、集、ま、り、く、く、



○ 澁州、安、儿、粒、ま、ま、村 戸田内、益、介、領、地 富、農、井、上、と、り、即、ち、云

湯布能いりりくち産をも寄送りく上人
概く常不退轉の念佛所より其れ其他七ヶ所淨後
の資料を併し彼等概を祈り行し之を密の法を
柯慶文彼等を任持せしる山家の懐を述く

いりりき公なり神を勤きたまひ
山と字も其世の辱るなり免

○武州熊谷の西新堀より一里と吉一より一里あり
上りも然るれ傳りたり東より出他部よりその
以糶糶するより由大家の婦人乃如く其際の密物
對の糶糶減物のゆきり人財結兼相の長力と云ふこと
謠言をいふ者を世に及是史其名を代へ相大糶

新に富強より梨園の少年及び戯藝者牧馬
拵持し所々戯場を以て其利を得たり

○佐渡國三郡羽茂 度津神社 大目神社 加茂 大福神社 阿部久志古神社
難太 引田部神社 物部神社 御食部神社 飯持神社 越敷神社

彼國の官社凡そ九座並少社あり今ハ佐藤を
取式内の社も知りたり也

秋米毎斗計十三万五石也 米粟 上古 萩原正江吉夫
子と新田牧万石を襲く 余ハ新田也

○小兒暴深し概く死する者多し 府下の庸医ハヤチと 治暴深如
候如く凡そ一俵りも医家必讀曰醬水散 水一身尽
冷汗出脉弱氣少不能言 甚者吐此為急病

の藤之納り六月のこ出く右車料 志知郡長根
 庄海邊所村より西石の地を号らる万治二年己
 亥印章を納り天王位名古原村より三百四十四石
 九斗五升五石豊臣家より山本邦君市多を納り
 東照宮祭田名古屋村十五畧六段二歩結末三百
 五石九斗七升五石但印章二百石元高也

○ 愛智郡星崎戸部蛇毒氣神天王祠

御靈會依忠吉君之命慶長十一年始之但車
 樂二輛自古在之只海邊の事也山崎村の舊
 池より徑一尺身より四把刈たり

○ 蟹螿カウナ二種あり其表ハハコ殼ハ大子果ナリ



是ハ岸ナク多ク
 川ナク多ク
 蟹螿ナリ



是ハ殼ナク多ク
 川ナク多ク
 蟹殼ナリ

凡棠螺化して紅紙なる蟹螿も子推なる俗に
 云車輪をかくふの化す所也かくなと唐より寄居
 子云元殼あり他の空殼をかりて寄居たり必しも
 かくいありしは是ても被因かふるをんき古人の云
 然りや手思ふ一物異殼の表ありん其蟹頭の有量ん
 凡ク魚

○ 武彦坊弁考の生地紀州熊野なりは但田急
 と新考し兩所より考の生地と傳之し所は新宮

舟田の生枝又産出の粒の楠として枝逆さるる生らる
古大楠あり昔粒を逆さるる根生しかくの如しと
古俗にひつての傳り

○田邊は多合権現といふ祠あり源平合戦の討あふ
赤白の鶴を合せく占ひたり所なりとも或は新態
野といふ

本宮四月十五日湯田植祭中「まが湯山」稱し七
少田四方の山形を築しよま少祠を併りけり
貞享五年中「大坂の傍」祭りすの神輿を制
し是は代々傳りし元禄十六年「り」本
山形の少祠を昇降しりるを形に「衣」祇園云の山

フ股たししと

○詩行葦朱傳曰古器物款識云

款ハ内切こころを字識ハ外湯かゝる字磁
器のクニニウも款合あり和俗ケボリといふ款

○孝徳天皇詔して凡そ死者もけり發を利所
獨り埋むるを禁せしむるも末世に知る人少

○熱田寛水の湯起書し「藤原村」相傳也系圖
雜類三「右大臣内膳」の弟孫從五位上村相傳あり

是より



金圖



銀圖

見幼学須知雜字大全

本々、
ギギ 哇 吐土 遂 竹遂

○文字のヘンツクリカシを私に非ハ他字に改メるあり

懸 懶 是ハ同シ
懸 懶 是ハ同シカラス

○肩 字書ノ外ニハ開クを肩ト云ハ然ラズハハ

敗音批悉彼未破ト云ハ物ノ此ト作リト是也

○皇女の大臣家ト嫁スルハ常子内親王配ニ條綱平

ト云ヘク親王ト云ハ内親王伏見殿ノ入簾

ト云ヘク堂上ノ家ト云ハ

○玄上の琵琶依人名畧

藤巨勢磨三男真作之子右巨守之孫諸葛之

子少納言玄上ハルラ 兼平三年正月廿一日卒

○我國いりへ下り陶器を制以他希及よりてハ

唐物の外ハ唐抄流戸の制を以てて是也中古

尚國知多乃人及四少^{法名}道元和尚ト云ハ宋ノ

磁器の法を習ひ得来りト云ヘクハ夫尾張國ハ

往古よりて玄器を燒く朝廷ト云キト云ハ

凡そト云リ

○奉試賦秋興以建除等十二字居句頭

治文雄

建西星初轉除金正王滿江鴻翼足平陸菊叢

香定識幽園女執校織綿章破簾共納薄危牖

月光涼夜雨葉声乱收芳草色黃烟書周賢候

削氷云々

○ ぼせいん 蒲黄をいりて茶湯抄あり或人云茶

茶をいりてぼせいんありては茶をいりて茶湯抄あり或人云茶

茶をいりてぼせいんありては茶をいりて茶湯抄あり或人云茶

○ あんせ うちかきもあつたのさかきりしはい茶の

字をいりて魚多ふんありては茶をいりて茶湯抄あり或人云茶

茶をいりてぼせいんありては茶をいりて茶湯抄あり或人云茶

以り

○ 唐土積氏をいりて伽藍神の号其府君某供者其

判官多しと稱し元道家の稱が利泰山府君司命

真君五瘟使者雷廷判官の類也亦密家よりい

大元師の法も方術家の事とて元師ハ武友と

て神仙と多く授く趙元師王元師の如し

○ 朱元師ハ胎を崑崙寄癸亥の年十月癸亥の日時

子育せし形藍青蚕眉巨脰左ハ金鏈を執右ハ鬼

袋をかゝる等 搜神大全五 我國大黒神と似たり亦亥

の月亥の日時とて十月亥の子の祓ひ由り起る

所より如

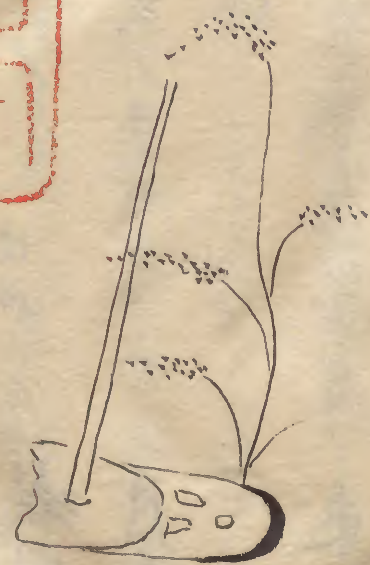
○ 東華崇府少陽帝君 東王父也

西靈母 西王母也又名靈大妙龜山金母

吾國之ふのきとていひの詞は東王父西王母と見ゆ

唐道家の事を我神事と習合せしむる見ゆ

此二仙実右震允少陽少陰の氣をとり
 ○ 野田松三郎海代官所を抄考田郡月村百姓
 位十所持の古歌に校出花はさき〜と云



校法を編つての如く
 花はさき〜と云
 色ハ重根のみ〜

